

## ウィックロー州の洋上風力発電による地域支援基金に対する 沿岸地域住民の理解

Nuala Carr

### 摘要

洋上風力発電は、アイルランドの脱炭素エネルギーシステム移行において重要な技術であり、化石燃料によるエネルギー生成への依存を低減する。アイルランド政府は、気候行動計画において、2030 年までに「少なくとも」3.5 ギガワットの着床式洋上風力発電の建設を約束している。洋上風力発電が現地コミュニティに受け入れられるかどうかは、エネルギー転換における大きな課題である。現地コミュニティからの抵抗は、開発業者や政府による不適切な関与が原因である。洋上風力発電の開発に対する沿岸地域の人々の態度を理解することは、エネルギー転換を迅速かつ成功させるための基礎となる。コミュニティ・ベネフィット・ファンド(CBF)の提供は、アイルランド政府の再生可能電力支援制度(renewable electricity support scheme: RESS)の一部であり、コミュニティの受容性を高める手法である。洋上風力発電開発からの CBF の提供に対する沿岸コミュニティの認識を理解し、受容性を高めるだけでなく、コミュニティの回復力を高めるために、基金の最適化方法の理解が重要である。現地コミュニティへの基金の提供の全体像を把握し、最適な利用方法を探るために、提供する産業界、政策を立案する政府、そして受益者の現地コミュニティの視点を理解するために、3 段階の混合した手法で調査を行う。調査方法として、半構造化インタビュー、Q 方法論、フォーカスグループの対話などが用いられる。本調査の最終目的は、産業界の戦略と政府の政策が、洋上風力発電の地域援助基金に対する現地コミュニティのニーズと期待に合致しているか否かの理解である。

問い合わせ: ncarr04@qub.ac.uk

本翻訳書は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)「風力発電等技術研究開発/風力発電高度実用化研究開発/風車運用高度化技術研究開発」事業の一環として、IEA Wind 国内委員会の承認のもと作成されたものです。翻訳監修:名古屋大学 丸山康司 教授